



高野聖と火の見やぐら：三田聖坂・二本榎通り

母校の慶應義塾がある三田の町で、昔からちよつと気に入っているのが聖坂ひじりざかの通り。第一京浜と桜田通りの間の尾根をずっと高輪の方へ続いていく道だ。

田町駅の方から広い桜田通りの三田三丁目の信号を渡って、慶大正門の前へ出る地藏通りに入ると、すぐ先で聖坂へ行く道と枝分かれする。分岐点にいま「トマト麺」の看板を掲げたラーメン屋が建っているけれど、僕の学生時代は「和田スポーツ」という運動具の店だった。とくにここは付属中（中等部）の部活でサッカーをやっていた時代、お世話になった。ボールに空気を入れるときに使うバルブという金具がよく失くななって、1年生の当時、ここまでダッシュ（全速力）

「浅野総一郎は浅野セメントと東洋汽船の社長で、成金で、あまり評判のよくない人だったが、電車道からの丘の上にかけて、どエライ邸宅を建てた。お手のものセメントで、エンエンたる高い塀を築き、門は石造りで、二本の柱の上に、金のシャチホコを載せたのである」

浅野邸跡は中学校とマンションに化した……と続くが、地図で重ねると、どうやらそれが三田（旧・芝浜）中学から東急アパートにかけての一带だったようだ。ちなみに聖坂の名の由来、近くに家光がキリシタンを処刑した地もあるので、そちらの聖（セント）をふと想像するが、この聖は高野聖がもとらしい。高野聖が開いた古代中世の通行路——と道標にある。少し行った左手、亀塚古墳のある公園隣の崖から階段を下りていくと、丘の斜面に御田八幡が置かれている。中学の歴史の授業でここを訪ねた頃は、崖の向こうに品川・田町間の線路や芝浦の運河が見渡せた覚えがあるけれど、いまは第一京浜ぞいの高層ビル群に隠れて、芝浦方面の景色はまるで見えない。

聖坂の通りに戻ると、この道は右手も古い寺が集まっていて趣きがある。幽霊坂の道標が立つ横道に入っていくと、こちら側にも崖地があって、ちよっとした隙き間に東京タワーが垣間見える。仙翁寺と玉鳳寺が向かい合うT字路、清久寺へ入っていくスイッチバック

で買いにいかされた思い出がある。

緩やかな坂を上りはじめると、道の左手には年季の入ったマンションが並んでいる。白壁に青い瓦屋根でおなじみの秀和レジデンスの向こうに、ほんのひと頃まで三田東急アパートがあった。尤も、いま現在まだ廃屋が残されているけれど、エンブレムなどは外されてしまった。昭和32年竣工のマンション（高級アパートメント）の草分けで、当時の映画などを観ていると、ちよっと金回りのいいホステスさんとか権力者の愛人の住み処みたいなシチュエーションで登場する。

■グツとくるスイッチバック式石畳路地

慶應の大先輩でもある獅子文六の随筆「ちんちん電車」に、氏が中学生の頃に第一京浜の札の辻のあたりから丘上の浅野総一郎邸を望んだ……という話が出てくる。



マンションの草分け的な存在の三田東急アパート跡。エンブレムなどはすでに外されていた

式の石畳路地……グッとくるポイントがいくつかある。

■灯台をイメージした洋風の火の見やぐら

聖坂通りは伊皿子の交差点に差しかかる。魚籃坂から泉岳寺の方へ行く道はかつての都電通り、伊皿子の電停もこの辺にあった。このイサラゴって印象的な地名、「いんべんす」という明国人に由来するとか、大仏が訛ったとか、いくつかの説が提示されているが、どれももう一つピンとこない。

伊皿子を過ぎると、右手にこんもりと見えてくる木立ちは、高松宮邸の屋敷林。隣接する公団高輪一丁目アパートの奥に大石内蔵助以下赤穂浪士十七名（細川屋敷で切腹した）の碑が置かれている。

このあたりから先の道は通称・二本榎通りとも呼ばれるが、東海大付属高輪高校の先の承教寺にその二本榎の石碑がある。そもそもこの寺にあった二本の榎の高木が、麓の東海道からも見える目印だった……ということらしいが、もはや伝説の榎はない（向かい側の黄

梅院に新たな二本榎が植わっていると聞いたが、よくわからなかった）。ところで、この承教寺、二本榎の石碑の横にある「件」（顔が人、胴体が牛の空想獣）の石像の方が見物だ。
さて、表通りの商店街、そろそろ見えてくるかな？ 前方を遠望しつつ歩いていくと、ようやくビルの向こうに高輪消防署（二本榎出張所）の独特の火の見やぐらが現われた。昭和8年に建設された洋風の望楼は、海に近い土地柄、灯台をイメージしたと以前署内の人に伺った。もはや、火の見の機能は失っているが、町のランドマークとして保存されている。

そして、消防署の交差点の先に高野山東京別院がある。本堂の質感は新しいが、ここに高野山の江戸在番所が置かれたのは延宝元年（1673年）。つまりここが高野聖の道のゴールなのである。



昭和8年に建設された高輪消防署（二本榎出張所）の独特の火の見やぐら



二本榎の石碑の横にある「件」の石像は、なかなかインパクトがある



清久寺へ入っていくスイッチバック式の石畳路地

~~~~~

高野聖（こうやひじり）は、中世に高野山を本拠とした遊行者。日本の中世において、高野山から諸地方に出向き、勧進と呼ばれる募金活動のために勧化、唱導、納骨などを行った僧侶。

~~~~~

目黒 蛇崩（じゃくずれ）

戸越というと、喧騒な銀座通りのイメージが先行するが、大井町線の駅にある戸越公園は「郊外の清澄庭園、とでもいうべき本格的な日本庭園。細川下屋敷から三井家に引き継がれたこの施設は見るべき価値がある。